

## 会長挨拶

～第21回全国学校飼育動物研究大会の開催にあたって～

鳩貝 太郎



本日、第21回全国学校飼育動物研究大会を開催したところ、3連休の中日にもかかわらず、北海道から九州までの全国各地からこのように多くの皆様にお集まりいただき、ありがとうございます。また、本研究大会の開催にご尽力、ご支援いただいた各団体や関係者の皆様に心より感謝申し上げます。

本研究会は平成16年（2004年）7月に発足してから、これまでの研究大会ではたくさんの素晴らしい実践研究や講演、シンポジウムなどを行うとともに、毎年、研究会誌を発刊してまいりました。会員だけでなく、学校等での動物飼育とその指導に当たられている皆様や関心をお持ちの方々に多くの情報提供を続けて来られたことに感謝申し上げます。なお、これらの詳細は本研究会のホームページをご参照いただきたいと思います。

さて、2005年の鳥インフルエンザの発生は、学校等でのニワトリなどの鳥類の飼育に大きな影響を与えました。小学校の敷地内に飼育舎はあるものの、空き家になっていたり、物置になっていたりするのを学校訪問の時に目にいたします。小学校などから動物がいなくなり、子どもたちが動物を可愛

がって飼育することができなくなってきています。

そこで本日は、子どもの発達心理に詳しい無藤隆先生に、子どもたちの動物飼育の意義や役割についてご講演をいただくことになっています。改めて学校で子どもたちが動物を継続飼育することの大切さを確認したいと思います。

また、小学校などでの動物飼育は厳しい状況にあることを多くの方々は感じていると思いますが、その全国的な実態はつかめていませんでした。今回は中島由佳先生から、全国2000校余りの小学校を対象にしたこれまでに行われたことのない大規模な動物飼育の実態調査の結果を発表していただけます。

さらには動物飼育の素晴らしい実践発表や飼育体験をした皆さんの発表も行われます。

本日参加いただいた皆様は、学校等での動物飼育において、教員の多忙さを解消しようとする働き方改革や子どもたちのアレルギーへの対応などの課題があることはご承知のことと思います。そこで本研究大会では、発表者の皆さんと参加者の皆さんとの質疑応答だけでなく、獣医師、教員や学生の皆さんとの情報交換、質疑応答などが活発に行えるように配慮いたしました。本日の研究大会では参加した皆さんどうしが親しく交流でき、学び合える場になり、学校での動物飼育が充実発展することを願っております。本日は皆様と共に素晴らしい研究大会にしたいと思います。では、よろしくお願いいたします。

（本会会長／国立教育政策研究所名誉所員／首都大学東京客員教授）